

◆主な内容◆

こんなことが決まりました
市政のここが聞きたい
林活議連からの報告
決算特別委員会
委員会活動
傍聴席
編集後記

議会です、
これにちは

こんなことが決まりました。

第3回定例会（9月5日から15日）で可決された議案等（13件）、意見書等（6件）、認定（3件）、報告（1件）、付託（1件）の主なものは次のとおりです。

- 議案**
- 平成18年度留萌市一般会計補正予算（第3号）
 - 平成18年度留萌市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
 - 平成18年度留萌市老人保健事業特別会計補正予算（第1号）
 - 平成18年度留萌市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
 - 平成18年度留萌市立病院事業会計補正予算（第1号）
 - 留萌市体育施設条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市総合計画審議会条例を廃止する条例制定について
 - 留萌市老人医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市乳幼児医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例制定について
 - 財産の交換について
 - 留萌市教育委員会委員の任命について

- 報告**
- 路線の認定及び廃止について（産業建設常任委員会へ審査を付託）
 - 専決処分の報告について（損害賠償について）
- 認定**
- 平成17年度留萌市各会計歳入歳出決算の認定について
 - 平成17年度留萌市水道事業会計決算の認定について
 - 平成17年度留萌市立病院事業会計決算の認定について
- 意見書**
- 医師臨床研修制度に関する意見書
 - 教育基本法の改正について慎重審議を求める意見書
 - 季節労働者の「特例一時金」現行維持および通年雇用の促進に関する意見書
 - 「米国産牛肉の輸入再開に反対し、BSEの万全な対策を求める」意見書
 - WTO農業交渉に関する意見書
 - ドクターヘリの全国配備へ新法制定を求める意見書

市政のここが聞きたい

一般質問

市民連合
野崎 良夫議員
一、市立病院の経営について
二、二十一世紀桜の丘整備事業について

一、新病院として五年を経過したが、経営不振で大ピンチである。このような時こそ、しっかりとした処方箋作りが必要となり、不良債務発生の要因を明らかにすべきであるし、一般会計と病院特別会計が正常な関係であるのかも明らかにすべきだ。
二、道北一の桜の名所をとの掛け声で進められて来たが、道北一とは最終的にどの様なイメージなのか。また、市の役割と責務、市民の協力などを明確にした条例の制定が必要となるが、検討されているか。



道北一の桜の名所に

◆野崎良夫議員への答弁

一、新病院建設時には診療報酬の大幅なマイナス改定や臨床研修制度による医師不足は想定外だった。重急性期病棟の活用も検討したが、医師・看護師不足のため難しい状況だ。十二月までに改革の方針を見出したい。普通交付税措置が病床数に応じて算定されている。財政課と病院事務部が協議し、繰入額を適正に決定している。
二、今後はスキー場エリアへの植樹を考えている。ロケーションを活かした散策路や休憩施設の整備も考えていきたい。市民の協賛金については基金条例を制定したい。
桜の丘整備条例も考えたい。

無党派

沢出 隆議員
一、子供にやさしいまちづくりについて
二、市街地再生の課題について

一、子供施策は「未来をつくる作業」に関わることであり、子ども自身が、自立的に自分を育てていくよう支援していく「子育て」支援の取組みが立ち遅れているのではないかと特に、空白となっている就学期思春期の子供への支援策、子供の参加の仕組みづくりが課題ではないか。
二、空き店舗の増加はマチの活力と賑わい喪失の象徴だ。建物所有者は町並みを構成する一員としての責任を優先して考えるべきではないか。地権者が漫然としている地域はなにをしてもダメという。マチを変えるためには所有権より強いルールが必要なのではないか。

◆沢出 隆議員への答弁

一、「子育て」支援のためのより良い事業展開が必要であり、次世代育成支援行動計画策定の際には児童生徒の声を活かしている。七十二の事業があり、そのうちの十事業が子供参加型の事業である。各種計

萌芽クラブ

村山ゆかり議員
一、ごみ処理と留萌市の環境について
二、女性登用とチャレンジ支援について



黄金岬での「磯の観察会」

一、留萌市財政健全化計画では、五十〜六十%のごみ手数料値上げを予定しているが、住民説明会は何月から予定しているのか。埋立最終処分場の延命が課題になっているが、

◆村山ゆかり議員への答弁

一、十九年度当初からのごみ処理手数料の値上げは難しいと判断している。住民に理解を求めていく。
M M C Sは臭気問題が発生し、解決策として移転も検討しているようだ。M M C Sの今後の動き、新たなごみ分別



埋立最終処分場の延命策は

画との横断的な連携と進行管理について今後は組織の見直しの中で検討していきたい。多くの子供たちに市政参加や意見表明について理解を深めてもらうことが大切だ。
二、中心市街地活性化基本計画の見直しについても建物所有者の参加を得て協議し、所有者・利用者両面から空き店舗対策を考えていきたい。
ごみ減量化策をお聞きしたい。M M C Sバイオマス処理センターは悪臭被害が相次ぎ、稼働停止しているが留萌市の下水道汚泥処理はどう対応しているのか。バイオマスタウン構想方針に変更はないのか。
二、男女平等参画社会に向けて留萌市の女性登用率目標五十%に向けた推進策と子育て後の再就職や起業に対するチャレンジ支援策の取組みについてお聞きしたい。

処理を踏まえて検討していく。下水道汚泥処理はM M C S以外の処理業者に搬入している。循環型地域社会を目指すためにもバイオマスタウン構想を推進したい。

菅原千鶴子議員
一、市民力と補助金の有効性について
二、留萌の子供の未来づくりについて

一、補助金の交付を受けている団体の中には、利益を求めずに地域コミュニティの形成に尽力し、市長の目指す市民一人ひとりが主役となる社会を目指して活動している公益性の高い、行政の施策を補完する事業を行なっている団体もある。一定の事業資金や運営資金の補助が必要だ。団体への補助に規定を設けてはどうか。
二、幼児教育問題協議会があったが、現在解散されている。

留萌市役所内に幼児教育の担当所管が無いが、市が中心となって市内の関係機関に働



子供達の笑顔が第一

きかけをして、一緒に手作りしていけばよいと思うが、市長の考えはどうか。

菅原千鶴子議員への答弁

一、市民団体が行っている活動には大変感謝している。今後も市民に必要な団体には補助が必要であれば、補助金や場所の提供などを行なっていきたい。補助金の申請から交付決定に至るまで透明性と公平性を確保し、情報公開に努めていく。事業の決算状況をふまえ補助額を検討し決定していく。継続的に事業評価を行っていき補助の分類の見直しも進めていく。
二、現在、留萌市では次世代育成支援行動計画を推進中であり、幼児教育もその中で取り組んでいきたい。今後は児童家庭課を担当所管としていく。

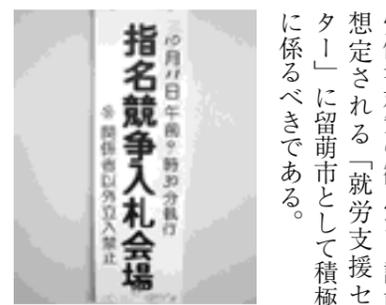
留萌公明党 村上 均議員
一、防災対策について
二、AED(自動体外式除細動器) 拡大について

一、平成十六年の台風十八号の直撃と留萌南部地震で大きな被害を受けた。そこで災害に強いまちづくりから、避難所・避難場所の再検討・絵柄入り避難所標識のビクトグラムへの推進・情報伝達の強化、戸別受信機の増設、さらに未結成の複数の町内会を合わせた自主防災組織の設立に向けて担当課のアドバイザー役としての考えを聞きたい。
二、心停止患者に電気ショックを与えて救命する「AED」の使用を一般人にも認めたことを受け、既に全校に設置している地域など、AED設置が進んでいる。留萌市の中学校全校設置についての考えを聞きたい。



AED(自動体外式除細動器)の設置を

戸別受信機配備を年次計画により拡充して行くなど迅速な整備に努めたい。自主防災組織の設立については、町内会などに共助の重要性、防災組織の必要性を呼びかけている。隣接する町内会の連携など啓発していきたい。
二、教育委員会には現在一台あり対応している。全校配置が望ましいので、財政再建期間中なので慎重に判断したい。



入札会場

市民連合 坂本 守正議員
一、公契約における基本理念に関する条例の制定
二、季節労働者の新たな支援制度について

一、近年、入札に際し公正労働基準など総合評価し、自治体にとって有利な者を落札者とする総合入札制度の導入をはかる動きがある。入札制度を通じて環境や福祉などの社会的価値を実現する、公契約における基本的理念に関する条例制定は意義があると考える。

二、新たな支援制度の通年雇用という目的は理解出来るが冬季施工技術の現状など事業主の協力がなければ出来ないと思う。地域の実情に合わない点は改善を要望して行く。支援センターについては、地域の雇用を安定させる観点から関係団体の協力を得て市の役割を果たしたい。

無党派(共産党) 坂本 茂議員
一、地域の医療活動に果たす市立病院の役割と、病院会計の見直しについて
二、住宅リフォーム助成制度を創り、地域経済活性化を



市立病院の役割は

え地域の経済活性化をはかるよう提案する。

坂本 茂議員への答弁

一、市は、地域住民だけでなく、留萌を訪れる人々の安心・安全を守るのが任務。病院会計の見直しは極めて厳しい状況なので、医師の確保、さらには病院としての大きな改革を考えている。議会の議論をふまえ不撤退の決意で取り組まなければならないと思っている。
二、留萌市内の中小業者が公共事業や住宅建設の減少など大変厳しい事は認識している。他市で制度化されている「住宅リフォームの助成」について調査している。業者の意向や利用者のニーズ、経済波及効果、雇用など検討し今年度実施の可能性を判断したい。

萌政会 珍田 亮子議員

一、子ども政策について
二、環境対策と検討課題

一、市長は就任以来、子どもの笑顔が広がるまちを目指す宣言をしているが、留萌市の子ども行政は、今後どのような形づけられるのか、子ども元氣課などを設置してはどうか、児童福祉週間の啓発、推進取組み状況を知りたい。子どもの権利条例に対する考え方を知りたい。こどもエコクラブ推進状況、支援策を聞きたい。
二、最終処分場の延命を図るためにも、綿製品の別回収が必要である。福祉的就労の場の提供を視野に入れ、取組んでほしい。検討課題となっている環境家計簿の取組み、市民の環境意識向上に向けた対策を聞きたい。

珍田 亮子議員への答弁

一、子どもみらいチームを設置し検討してきたが、一課制は困難、今一度整備したい。児童福祉週間は、児童施設等、さらに駅やバス停、などに啓発ポスター掲示を依頼。FMもえるに特別番組を依頼する等したい。権利条例は、総合

計画との整合性をはかりながら対応。こどもエコクラブについては環境基本計画の中で支援。
二、平成十九年度から綿製品別の回収を行い、福祉面での就労委託についても検討したい。環境家計簿は対象品目や記載方法等も検討し、環境家庭モニターを募集して実施したい。



環境家計簿の取組みは

こんな活動もしています その他の議会活動

留萌森林林業林産業活性化促進議員会(林活議連)
議員相互の森林林業林産業の活性化に向けた政策勉強や実態認識の視察、植樹祭など、緑や山の自然環境を守り育成するため、議員の活動を更に強め、あらゆる機会を通して交流、親睦を深める活動を進めております。



9月22日、礼受牧場で植樹会(アジサイ20株植栽)



5月21日、市民植樹祭に参加

林活議連では、平成十九年に畜産館裏側にアジサイ五十株を植えました。
この十年間で生育が悪く、枯れたアジサイもあつたため、議員が積立している会費からアジサイ二十株を捕植しました。



処理を踏まえて検討していく。下水道汚泥処理はM M C S以外の処理業者に搬入している。循環型地域社会を目指すためにもバイオマスタウン構想を推進したい。

二、留萌市の女性登用率は三十七・六パーセントで全道一番である。人材開発センターの活用も考えながら講座の開設も検討していきたい。

市民連合

菅原千鶴子議員
一、市民力と補助金の有効性について
二、留萌の子供の未来づくりについて

一、補助金の交付を受けている団体の中には、利益を求めずに地域コミュニティの形成に尽力し、市長の目指す市民一人ひとりが主役となる社会を目指して活動している公益性の高い、行政の施策を補完する事業を行なっている団体もある。一定の事業資金や運営資金の補助が必要だ。団体への補助に規定を設けてはどうか。
二、幼児教育問題協議会があったが、現在解散されている。

留萌市役所内に幼児教育の担当所管が無いが、市が中心となって市内の関係機関に働



子供達の笑顔が第一

きかけをして、一緒に手作りしていけばよいと思うが、市長の考えはどうか。

菅原千鶴子議員への答弁

一、市民団体が行っている活動には大変感謝している。今後も市民に必要な団体には補助が必要であれば、補助金や場所の提供などを行なっていきたい。補助金の申請から交付決定に至るまで透明性と公平性を確保し、情報公開に努めていく。事業の決算状況をふまえ補助額を検討し決定していく。継続的に事業評価を行っていき補助の分類の見直しも進めていく。

二、現在、留萌市では次世代育成支援行動計画を推進中であり、幼児教育もその中で取り組んでいきたい。今後は児童家庭課を担当所管としていく。

留萌公明党

村上 均議員
一、防災対策について
二、AED(自動体外式除細動器) 拡大について

一、平成十六年の台風十八号の直撃と留萌南部地震で大きな被害を受けた。そこで災害に強いまちづくりから、避難所・避難場所の再検討・絵柄入り避難所標識のビクトグラムへの推進・情報伝達の強化、戸別受信機の増設、さらに未結成の複数の町内会を合わせた自主防災組織の設立に向けて担当課のアドバイザー役としての考えを聞きたい。

二、心停止患者に電気ショックを与えて救命する「AED」の使用を一般人にも認めたことを受け、既に全校に設置している地域など、AED設置が進んでいる。留萌市の中学校全校設置についての考えを聞きたい。

村上 均議員への答弁

一、現在避難所指定施設は八十四カ所。今年度中に説明会を設定し次年度の改善に盛り込みたい。標識については、今後設置が必要となった場合、ビクトグラム等も研究して行きたい。一刻を争う津波被害が想定される地域などに対し、



AED(自動体外式除細動器)の設置を

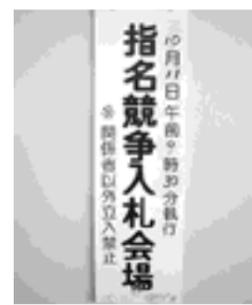
戸別受信機配備を年次計画により拡充して行くなど迅速な整備に努めたい。自主防災組織の設立については、町内会などに共助の重要性、防災組織の必要性を呼びかけている。隣接する町内会の連携など啓発していきたい。

二、教育委員会には現在一台あり対応している。全校配置が望ましいので、財政再建期間中なので慎重に判断したい。

市民連合

坂本 守正議員
一、公契約における基本理念に関する条例の制定
二、季節労働者の新たな支援制度について

一、現行の自治体の入札制度は、価値だけで評価し公共工事で働く労働者の低賃金など様々な公正労働の問題を引き



入札会場

起こしている。自治体は公正労働の確立、環境や福祉など社会的価値の実現に取組む必要があり公正な競争と地域経済への貢献を図る為、条例の制定が必要だ。
二、国は、現行の「安定奨励金」と「冬期技術講習」制度を廃止し、両制度を統合した新たな支援制度が創設されたが、どう認識しているか。また、通年雇用に移行できない季節労働者対策の観点から設置が想定される「就労支援センター」に留萌市として積極的に係るべきである。

坂本 守正議員への答弁

一、近年、入札に際し公正労働基準など総合評価し、自治体にとって有利な者を落札者とする総合入札制度の導入をはかる動きがある。入札制度を通じて環境や福祉などの社会的価値を実現する、公契約における基本的理念に関する条例制定は意義があると考える。

二、新たな支援制度の通年雇用という目的は理解出来るが冬季施工技術の現状など事業主の協力がなければ出来ないと思う。地域の実情に合わない点は改善を要望して行く。支援センターについては、地域の雇用を安定させる観点から関係団体の協力を得て市の役割を果たしたい。

無党派(共産党)

坂本 茂議員
一、地域の医療活動に果たす市立病院の役割と、病院会計の見直しについて
二、住宅リフォーム助成制度を創り、地域経済活性化を

一、留萌市は、「市民の健康を守る」使命をもっており、そのために市立病院を開業して地域の医療活動を進展させている。開業医の皆さんと連携を強めて患者さんの紹介活動をすすんで行く等、患者中心の医療活動も強く求められている。病院開設者である市長は病院会計の健全化を含め責任があると思うがどうか。
二、「住宅リフォームしたいが踏み切りがつかない」という声がある一方、中小の建設業者は「さっぱり仕事がない」と深刻。住宅リフォーム助成制度を創り、市民の要望に応



市立病院の役割は

え地域の経済活性化をはかるよう提案する。

坂本 茂議員への答弁

一、市は、地域住民だけでなく、留萌を訪れる人々の安心・安全を守るのが任務。病院会計の見直しは極めて厳しい状況なので、医師の確保、さらには病院としての大きな改革を考えている。議会の議論をふまえ不撤退の決意で取り組まなければならないと思っている。

二、留萌市内の中小業者が公共事業や住宅建設の減少など大変厳しい事は認識している。他市で制度化されている「住宅リフォームの助成」について調査している。業者の意向や利用者のニーズ、経済波及効果、雇用など検討し今年度実施の可能性を判断したい。

萌政会

珍田 亮子議員
一、子ども政策について
二、環境対策と検討課題

一、市長は就任以来、子どもの笑顔が広がるまちを目指す宣言をしているが、留萌市の子ども行政は、今後どのように形づけられるのか、子ども元氣課などを設置してどうか、児童福祉週間の啓発、推進取組み状況を知りたい。子どもの権利条例に対する考え方を知りたい。こどもエコクラブ推進状況、支援策を聞きたい。

最終処分場の延命を図る

二、最終処分場の延命を図るためにも、綿製品の別回収が必要である。福祉的就労の場の提供を視野に入れ、取組んでほしい。検討課題となっている環境家計簿の取組み、市民の環境意識向上に向けた対策を聞きたい。

珍田 亮子議員への答弁

一、子どもみらいチームを設置し検討してきたが、一課制は困難、今一度整備したい。児童福祉週間は、児童施設等、さらに駅やバス停、などに啓発ポスター掲示を依頼。FMもえるに特別番組を依頼する等したい。権利条例は、総合

計画との整合性をはかりながら対応。こどもエコクラブについては環境基本計画の中で支援。
二、平成十九年度から綿製品別の別回収を行い、福祉面での就労委託についても検討したい。環境家計簿は対象品目や記載方法等も検討し、環境家庭モニターを募集して実施したい。



環境家計簿の取組みは

こんな活動もしています その他の議会活動

留萌森林林業林産業活性化促進議員会(林活議連)

議員相互の森林林業林産業の活性化に向けた政策勉強や実態認識の視察、植樹祭など、緑や山の自然環境を守り育成するため、議員の活動を更に強め、あらゆる機会を通して交流、親睦を深める活動を進めております。



5月21日、市民植樹祭に参加



9月22日、礼受牧場で植樹会(アジサイ20株植栽)

林活議連では、平成十九年に畜産館裏側にアジサイ五十株を植えました。この十年間で生育が悪く、枯れたアジサイもあつたため、議員が積立している会費からアジサイ二十株を捕植しました。

決算特別委員会

総務費

Q 職員不足によって体調不良を訴えている状況、長期休職者はいないのか。
A 十七年度の長期休職者はいない。何人かは病気を抱えているときいている。各自の健康管理には充分気を付けてほしい。

Q 公務員の飲酒運転には厳しく対応すべきであるが、留萌市はどう臨むのか。
A 酒気帯びは停職、酒酔いは免職あるいは停職の重い処分になる。

Q 防災備品強化事業費に要した経費七十七万七千円の内訳を知りたい。



A 台風十八号の高波で被害を被り瀬越地区に戸別受信機を購入した。

Q いざという時の情報発信として「FMもえる」として、

提携しているが聴取率は伸びているのか。
A 聴取率の調査結果では年々増加傾向になっている。さらなる、情報発信などの研究をしていきたい。

Q 住民基本台帳カードの交付状況はどうなっている。
A 交付件数は百三十五件で人口に占める割合は〇・五%、全道平均よりも低い。印鑑登録や図書館カード、公共施設の予約といった多目的利用が進むと普及すると思う。



Q 職員研修費が削減されているが資質向上に影響は出ているのか。
A 十七年度の研修費は少なかつたが、十八年度は相対額計上した。企画能力のアップに努めている。市民に役立つ研修が必要である。

Q 平和記念式典に君が代の斉唱はふさわしくないのではないのか。

いる。金融協会、商工会議所などと検討する。

土木費

Q 船場公園整備事業の期間費や国の補助金等について聞きたい。
A 平成二十年までの認可期間を戴いている。全体事業費は十七億円で十七年度までは約九億円となっている。



Q 船場公園整備事業の中にドッグラン構想があるがいつ頃決定した事業か。
A 平成十六年の市民会議で決定し、広報もいにも記載した。

Q 塩見、三泊地域の電波障害にどのように対応するのか。仕事が遅いと思うが、どうなっている。
A 町内会と協力し、船が在港している場合、いない場合にそれぞれ調査し、できるだけ早く対応していく。

Q 補助金を交付しているコールセンターの職員動続年数はどうなっている。定着に向けた研修カリキュラムを組むべきと思う。
A 地域の雇用状況にあわせて第二コールセンターに衣替えした。地元定着の企業になっていると思う。

Q 中心市街地とにぎわいゾーンが一致していない。中心市街地活性化基本計画を見直す考えはないのか。
A 法律が改正されて、十八年度中に基本計画を見直したいと考えている。中心市街地の区域は幾分変わると思う。

Q 中小企業小口融資は利用しにくい。十七年度はゼロとなっているが、どのように対応するのか。
A 大口の特別融資を含め、制度の見直し時期にきて

A 関係者と協議し、式典の中身を検討したい。

Q 道北地方の山岳避難防止対策協議会負担金用途や構成メンバーを知りたい。
A この地方で山岳遭難などが起きた場合の救済依頼ができる。道北の市町村の山岳団体、警察が入っている。

Q ボランティア支援育成事業委託料はどこに使われているのか。ボランティアリーダーの研修効果、実績を知りたい。
A 社協（ボランティアセンター内）の推進委員会の委員研修および、重点研修をしている。海水浴場のゴミ拾い、ふれあい広場参加等のボランティア精神が育っている。留守家庭児童会の対象学年を拡大する考えはないか。



A 十七年度から四年生、十八年度は五年生、十九年

Q 公園の遊具を撤去しているが、その後の対応はどうか。
A 危険な遊具、施設八十基を撤去した。十八年度から改修している。緑の基本計画の中で公園の改廃を検討する。



Q 公園の砂場で遊んでいた子どもが病気になるという話があるが、衛生管理は行っているのか。
A 昨年は六ヶ所の公園砂場で、ふん尿の有無を確認した。悪い砂場については砂を入れ替えた。今年も点検している。

教育費

Q 地域コミュニケーション事業に要した内容と今後の見通しについて聞きたい。
A 地域のこわいおじさん、おばさん事業のシールや看板設置費用である。今年で六年経過しており、息の長いテーマであるから、趣旨の徹

度は六年生まで引き上げたい。花のまちづくり推進事業に要した経費の内容を知りたい。
A 表彰状、現像料などで、十七年度は苗の配布はしていない。

Q 町内会活動推進事業に要した経費で連合会負担金はどこへ出しているのか。
A 北海道町内会連合会の負担金である。

Q 留萌市の生活弱者の実態とケースワーカーの数、一人当たりの相談担当件数を知りたい。
A ケースワーカーは四名、生活指導員が一名、生活保護世帯者数は八月末で三百九十二世帯、一人担当は、約八十七世帯となっている。

Q 生活弱者の自立に向けた事業を考えているのか。就労をめざし、自立を促しているか。
A 健康手帳交付事業は市立病院とマッチングしたらどうか。

Q 検討したが、中身的に一冊にはならない。
A MMS（多目的材料変換システム）のバイオマス処理センターは、いつ頃から悪臭の苦情が来ていたのか。

衛生費

Q 協議会の設置は十二校中十校設置。個別計画の策定は三校で、コーデイネーターは七校について指名済みである。特別支援教育の講演を十一月十二日に開催した。

Q 海のふるさと館の指定管理者制度導入の動きはあるのか。



A 指定管理者制度を導入したい施設であり、現在検討している。課題をクリアしなければならぬ。観光施設として捉えた場合、教育委員会としてどう対応するのか、結論を見いだすまでに至っていない。

Q 総合学習における環境教育の取組みを知りたい。

A 昨年の六月から苦情があり、今年六月に臭気判定を行った。

Q 生活習慣病予防講座を開催しているが男女別、年齢別のデータがあるのか。
A 市立病院と協賛して健康都市宣言の事業として開催した。全体的には高齢者の参加が多かった。



Q 専門家による悪臭判定は行われたのか。
A 悪臭の存在は判っており、事業者自身も確認している。美サイクル館の資源化率は稼働当初からのぐら上がったのか。
A 約九千トンのゴミを受け入れており、六十%強の資源化率である。MMSによるゴミ処理で九十%程度の資源化率を見込んでいた。

商工費

Q 留萌地域人材開発センター運営状況はどうなっている。
A 人材開発センターの設置目的は法律に基づいてお

Q 留萌川や学校裏山を活用して自然環境に親しんだ。佐賀番屋はどう整備していくのか。
A 第五次総合計画に佐賀番屋の整備のあり方を盛り込んでいく。



Q 学校の耐震診断の結果はどうなったのか。
A 小、中三校（九棟）で耐震審査を実施した。三棟は問題がなかったが、残る六棟は耐震補強が必要であることがわかった。未整備の状態になっているので計画的な整備計画を検討していく。



災害復旧費

Q 社会教育施設災害復旧費が計上されているが主な内訳を知りたい。

A 佐賀家漁場内の廊下が台風十八号の被害を受けて壊れた。この復旧経費である。なお建物を含め重要指定文化財など、その他の物は被害にあっていない。



Q 三泊地区(天然海岸)の災害復旧工事が上げられているが概略的にどのような復旧工事がなされたのか。

A 台風十八号の被害に災害復旧工事で既存の護岸底から八十センチ新しく護岸を整備したが、民家及び建物がある所となった。

歳入

Q 広報広告料収入で六十万円が計上されているが掲載件数及び収入アップに向け

ての取組み状況を知りたい。

A ぐらしのカレンダーの中ので広告スペースをもって六コマ、四件となっている。現在、広報誌のページ数や経費の圧縮をしている。更なる検討が必要である。



国民健康保険事業特別会計

Q 平成十六年度の歳入歳出差引きで二億五千八百万円、平成十八年は三億千七百五十八万円が繰上充用され、年々赤字がふえているような状況であるが、その点について知りたい。

A 十七年度は五千九百三十三万六千円の赤字が生じている。高齢化の進展に伴って、構造的に高齢者の被保険者を抱える。さらに、今日の経済情勢を反映し、負担能力の低下がみられる。

Q 国保税の赤字に関しては、低所得者の保険料の滞納が非常に多いと言われている

が、現在も変わりないのか。

A 滞納者の区分として全体で千五百五十七件、低所得者は四百九十世帯となっている。構成率は四十二・四%を示している。

Q 滞納により病院にかかれなく死亡した例が、昨年度、全国で三千件ほどあった保険証の交付を受けたときの対応はどうなっている。

A 留萌市では実例はない。滞納者の目線でやっていると、弱者救済については資格要件があれば、その要件に合わせて法律の運用をしているので、理解を願いたい。

介護保険事業特別会計

Q 介護認定調査に要した経費で調査員、認定資料作成などを詳しく知りたい。



A 認定調査については、基本的に直轄の部分と委託の部分がある。今現在は嘱託職員一名、事務職員一名が直轄の部分の請け負っており、

委託については、各事業所に委託をしている。認定調査の訪問調査の結果は随時あげてもらっている。

Q 現在、留萌市内に介護認定の調査に当たれる人数は何名いるのか。

A 八ヶ所の委託事業所があり、現在二十二名の介護支援専門員がいてその方々に委託できる。

Q 留萌市の人口で地域包括支援センターが二ヶ所十分、事が足りるのかどうかを教えてください。



A 国の方からは人口およそ三万以上に一という基準が出されているが留萌の人口規模では一ヶ所どころかやっというかと考えている。

Q 住宅改修費は留萌でも大分、理解や認知度が高まってきているが主な住宅改修の内容を知りたい。

A 十七年度は四十七件の実績である。主な内容は、

委員会活動

総務文教常任委員会
民生常任委員会
産業建設常任委員会

総務文教常任委員会

【八月二十二日開催】

- (総務部所管事項)
 - 留萌市民防災訓練について
 - 平成十七年度市税及び市税外収納結果、平成十八年度市税及び市税外収入状況について
 - 冷蔵倉庫誤賦課による税額還付及び加算金について
 - 財産の交換について
- (政策経営室所管事項)
 - 留萌市経済活性化懇談会について
 - 第五次総合計画策定、自治基本条例制定について
 - 平成十八年度補正予算説明資料及び平成十七年度決算資料について
 - 平成十七年度留萌市財政再建計画実施結果について
 - (教育委員会所管事項)
 - プール施設の安全点検の実施について
 - 平成十八年度神居岩スキー場運営事業について

民生常任委員会

【六月三十日開催】

- (市立病院所管事項)
 - 留萌市立病院借上げ医師住宅について
- 【八月二十一日開催】
 - (市立病院所管事項)
 - 平成十七年度病院事業会計決算の概要について
 - 平成十八年度病院事業会計補正予算(第一号)について
 - 市立病院経営改革委員会の経過報告について
 - 平成十八年度診療体制について
 - (生活福祉部所管事項)
 - 平成十八年度補正予算(案)について
 - 留萌市国民健康保険条例の一部改正について
 - 留萌市重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部改正について
 - 留萌市乳幼児医療費の助成に関する条例の一部改正について
 - 留萌市老人医療費の助成に関する条例の一部改正について
 - 旧ごみ埋立処理場越境問題について

産業建設常任委員会

【七月七日開催】

- (産業建設部所管事項)
 - 医師住宅建設計画及び借り上げ公営住宅推進事業について
 - 委員会終了後、佐賀番屋、礼受漁港、船場公園等視察



【八月十八日開催】

- (新設砂浄水場視察)
- 【八月二十三日開催】
 - 各課補正予算説明について
 - 路線の認定及び廃止について
 - 平成十八年度神居岩スキー場運営事業(案)について
 - 第二回上下水道運営委員会開催結果について

傍聴席

見晴町四、五丁目
浦田 秀子
野原 好子

今回、はじめて、市議会傍聴の機会を持ちました。議場の雰囲気は少し疲れぎみに感じました。また、議員席も退屈そうであり、態度や姿勢もよくありませんでした。そして、おしゃべりなどが傍聴席にも聞こえてくる始末でした。さらには、議会中にもかかわらず、議場の出入りが激しく、同じ議員が、なぜ、何度も席を立つ理由があるのか理解できませんでした。せめて傍聴者がある時だけでも、おしゃべりや態度、姿勢を正す緊張感をもって取り組んで戴きたいと思っております。一案ですが議会中の出入りを防止する方策として、一人の質問者が終わるたびに十分程度の休憩時間を作る工夫も必要ではないかと思っております。



段差解消や手すり、スロープなどが三大利用である。

Q 二十万の住宅改修費は単年度というところで、翌年度にも、さらにまた二十万使うことができるようになっていたが今も同じか。

A 年度で二十万、特に年度内で介護度が三度上がった場合には、再度支給が可能である。

港湾事業特別会計

Q バラ化小麦倉庫使用料が未収となっているが、これは、実際には使われなかったと見てよいのか、中身を知りたい。



A 百四十四万九千円は、小麦倉庫使用料で留萌港開発が使用している。五月三十一日時点で納入されていないことが判明した。催促をして、六月五日に納付されたいことにより、収入未済となった。

議会広報特別委員会

委員長 村上 均
副委員長 松本 亮
委員 松田 順
委員 江原 千鶴
委員 菅本 茂

今議会は、一般質問と17年度の決算特別委員会が議論の場となり、各議員がそれぞれの視点で質問に臨み答弁を受けました。その中で市立病院の今後の方向性を示す時期、決算委員会でのそれぞれの答弁を今後の政策に反映させる努力が必要だと考えます。

さて、各定例会に傍聴して頂いた方に、この議会広報で傍聴席にご意見を戴いております。ここ何回かのご意見で、議員に対する「厳しくも優しい、叱咤激励の言葉」を戴きました。この言葉を各議員がどう受け取るか、また定例会に緊張感をもってどう取り組んで行くかが、傍聴に来ていただく方への答えになるのでは。(村上 記)

編集後記